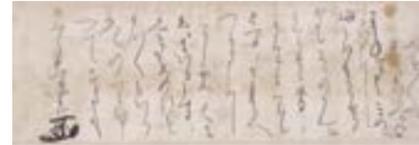


## 花岡館長のおすすめ 榊原家史料小噺

### 2代康勝が妻に宛てたラブレター

あまり知られていませんが、2代目康勝の妻は加藤清正の娘・こやです。康勝がいた館林から江戸にいるこやへの「会いたい」という素直な気持ちがつづられた恋文が残されており、2人の仲むつまじい様子がうかがえます。



▲康勝が妻こやへ宛てた手紙

### 高田への転封を招いた「風流大名」

8代政岑は歌や三味線、歌舞伎など庶民の芸能に通じており、「風流大名」と称されていました。ぜいたくが好きで、派手な着物を着て歩き回ることもあり、そんな政岑の行いを戒める家来の書状が残されています。ついには徳川吉宗から隠居・謹慎を命じられ、榊原家は姫路から高田へ移ることになります。



▶政岑の家来、太田原儀兵衛が政岑の近臣に宛てた諫表

### 11代政令の細かすぎる手紙

近年、政令が江戸から高田の家来へ宛てた多くの手紙が見つかりました。高田で起きた殺人事件の捜査・取り調べの手順の指示や容疑者の供述のあいまいな点に対する鋭い指摘など、江戸から宛てた手紙とは思えないほど細やかな内容が記されています。

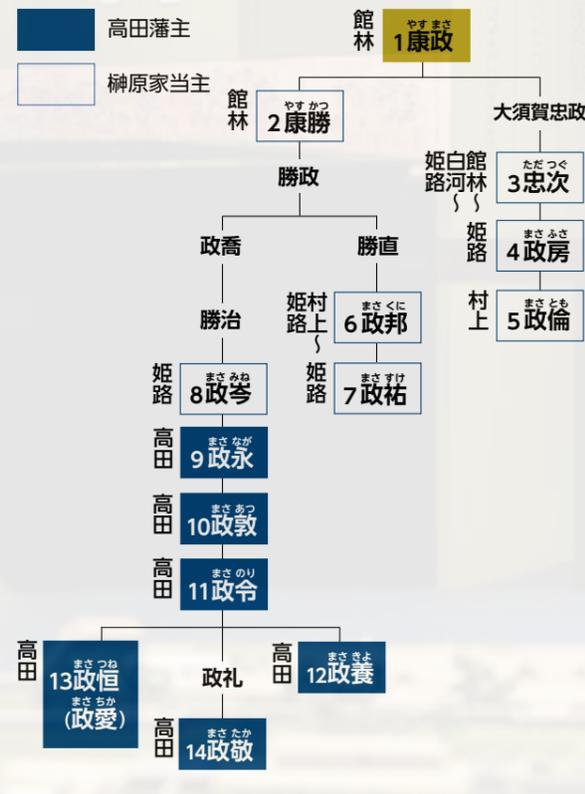


▲江戸在住の政令から高田の藩士へ宛てた手紙

### 歴代の主な高田藩主

大名	藩主となった年	在封年数
堀家	1598年(慶長3)	12
松平忠輝	1610年(慶長15)	6
松平光長	1624年(寛永元)	57
稲葉正通	1685年(貞享2)	16
久松松平家	1710年(宝永7)	31
<b>榊原家</b>	<b>1741年(寛保元)</b>	<b>130</b>

### 榊原家家系図 歴代藩主と領地



近代の上越



家康の家臣で、「徳川四天王」の1人と称された榊原康政ゆかりの品が当市にあることをご存知ですか。今から20年前の平成16年(2004)、約1,700点にも及ぶ「榊原家史料」(新潟県指定文化財)が上越市に里帰りしました。これらは江戸時代に高田藩主を最も長く勤めた榊原家が代々残した記録や歴代当主の遺品などで、当時のまちの様子を知ることができる貴重な史料群です。今号では、この間20年間の研究成果を紹介する歴史博物館での企画展開催に合わせて、榊原家と上越市とのつながりについて紹介します。

特集  
「高田の殿さま」榊原家と高田藩の足跡を訪ねて

榊原家の歴史は、とりもなおさず近世「上越市の歴史」でもあるからこそ、私たち歴史博物館では一層の熱意を持って、お預かりした史料の研究を進めています。今回の企画展では、この20年間で新たに分かったことを中心に紹介しています。近年の歴史・城郭ブームのおかげで、「榊原家史料」が上越市にあるということが全国に知られてきています。今回の企画展をきっかけに、市民の皆さんにもこの貴重な史料に触れていただき、往時のまちの姿に思いをはせてもらえたらと思います。

貴重な史料の「お国入り」  
長い年月をここの上越市で過ごした榊原家ですが、榊原家に代々受け継がれてきた記録や絵、工芸品などの多くは、長らく尾張(愛知県)徳川家に預けられていました。それが今から20年前、榊原家による「上越市にゆかりのある品は上越市にあるべき」というご英断と、公益財団法人旧高田藩和親会のご尽力のおかげで、「榊原家史料」がこの地に里帰りを果たしたのです。上越市に移し渡された史料は、まず和親会の管理となり、その後、一部の史料を歴史博物館でお預かりすることとなりました。

### 榊原家といえば上越市

### 藩祖榊原康政と榊原家



歴史博物館  
花岡館長

榊原家の藩祖康政は徳川家康に仕え、酒井忠次、本多忠勝、井伊直政とともに「徳川四天王」と称された名将です。家康が出陣する戦では先陣を切って戦う勇猛さを持つ一方で、上杉謙信公など他国の諸大名と家康との取り次ぎ役を担うなど、高い外交能力をも備えた文武両道の武将でした。榊原家は康政以前から大名家だったわけではありません。天正18年(1590)、家康が豊臣秀吉から関東への国替えを命じられ江戸城に入った際に、康政は家康からそれまでの功績が認められて上野国館林(現在の群馬県館林市)に領地を与えられ、大名となります。以後、榊原家は陸奥国白河(同福島県白河市)、播磨国姫路(同兵庫県姫路市)、越後国村上(同新潟県村上市)、そして再び姫路と領地を転々とし、寛保元年(1741)、9代政永の時代に高田藩主となります。以後高田藩が解体する明治初期までの約130年間、上越地域を治めました。



上/榊神社(大手町4)境内にある雙輪館。榊原家ゆかりの資料を常設展示している。見学希望の場合は毎週水、金の午後1時30分から4時30分の間に旧高田藩親会事務局(☎025-512-6418)へ下/今回の企画展のために康政の甲冑を「雙輪館」から運び出す様子。

私たちが親会が事務所を置く榊社には、榊原家ゆかりの歴史資料を保管・展示している宝物館「雙輪館」があります。20年前に「榊原家史料」が上越市に移された時に、この雙輪館へ運び込みました。以来、歴史博物館と協力して、この貴重な史料の保存や修復、展示などを行っており、今回の企画展でも康政の甲冑など一部史料を貸し出しています。



(公財)旧高田藩親会事務局長 長谷川さん

## 里帰りした地域の史料を次の世代へつないでいく

「榊原家史料」は、大名だけでなく家臣や城下町に関する記録も残されており、私たちのルーツを知ることができる重要な史料です。私自身も史料から私の祖先に関する記録が見つかったこともあり、興味を持って楽しく学んでいます。

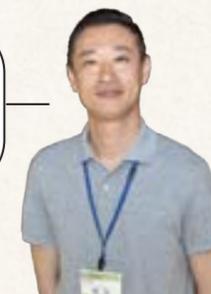
このような貴重な史料や歴史文化が地域にあるということ、を次の世代へつないでいくためにも、1人でも多くの市民の皆さんに知ってもらいたいです。

親会ではこれからも資料の保存や管理を行うとともに、フォーラムや勉強会などの取り組みを続けていきたいと考えています。



# 史料からたどる榊原家の系譜

上越ゆかりの品を見にぜひ、歴史博物館へお越しください。



歴史博物館 荒川係長

今回の企画展では、初代康政から14代政敬までおよそ300年の榊原家の歴史を4章に分けて紹介しています。ここでは、章ごとの展示の見どころを少しだけご紹介します。

## 第一章 徳川四天王 榊原康政

康政以前の榊原家は徳川家にあつて、決して有力な武将ではありませんでした。康政は家康に見出され、常に家康の側で家康の期待に応えて活躍し、家康を天下人へと押し上げるとともに、自らも10万石の大名となつて、その後の榊原家の基礎を築き上げていきました。

▶榊原康政所用陣羽織 康政が使用した陣羽織。長篠の戦いで着用したと伝えられている。



▲刀 無銘 備前元重 康政が徳川家康から拝領した刀

## 第二章 好文大名と風流大名

3代忠次は学問と書物、和歌を愛し、「好文大名」と呼ばれました。4代將軍家綱に仕え、幕政にも関わりました。8代政孝は庶民の芸能に通じ、「風流大名」と呼ばれました。派手な行いにより隠居・謹慎を命じられます。

▶御当家記念録草稿 3代忠次が編さんした徳川幕府創業史。忠次自身が経験した3代將軍徳川家光時代までの記録が記されている。



## 第三章 高田の殿さま

高田へと移った榊原家は大雪や洪水、大地震など相次ぐ災害に見舞われます。また、苦しい財政状況を改善するための藩政改革を行うなど、高田の殿さまの苦悩の歩みをたどります。

▶大地震之節日記 寛延4年(宝暦元年、1751)に起きた高田地震の様子が記されている。



## 第四章 榊原家の幕末・維新

幕末の難しい藩政のかじ取りを任されたのはわずか17歳で藩主となった14代政敬でした。激動の時代に榊原家が経験した長州戦争・戊辰戦争について、藩祖康政以来の徳川家とのつながりに注目して、高田藩の動向を振り返ります。

▶長州征討軍図 高田藩士であり、後に浮世絵師楊洲周延として一世を風靡する橋本直義が描いた長州戦争に出兵する様子。



## 企画展 I 徳川四天王 榊原康政の系譜 - 譜代名門の史料と歴史 -

「榊原家史料」(新潟県指定文化財)を中心に、榊原家の歴史を最新の研究成果とともに紹介します。

- ▶と き…11月4日(月)・(金)まで  
前期:9月1日(日)まで  
後期:9月6日(金)~11月4日(月)・(金)
- ▶ところ…上越市立歴史博物館(高田城址公園内)
- ▶開 館…午前9時~午後5時
- ▶休 館…月曜日(祝日の場合は翌日)
- ▶入館料…一般510円、小・中高生260円  
(幼児、市内小・中学生は無料)
- ▶問合せ…上越市立歴史博物館(☎025-524-3120)

※9月3日(日)~5日(火)は展示入れ替えのため常設展示のみ



歴史博物館 ホームページ



- 関連イベント
- 学芸員による連続講座
- ▶とき…8月10日(土)、9月8日(土)、10月5日(土)  
いずれも午前10時~11時30分
  - ▶定員…各回50人
  - ▶費用…無料(ただし、観覧料が必要)
  - ▶申し込み…8月1日(土)以降に電話で申し込み

- 展示解説会
- 学芸員による展示解説を行います。
- ▶とき…11月2日(土) 午前10時~11時
  - ▶費用…無料(ただし、観覧料が必要)